

# 過保護の理解

「保護」と「過保護」の区別は難しい面があります。ここでは、親が子どもに先んじて何でもやってあげる、子どもに負担がかかりそうなことはさせない、こどもの非を認めず、他に責任転嫁するかわり方を「過保護」と考えます。過保護は、ナルシズム（万能感・自己中心性・うぬぼれ）や劣等感を強めます。いわば、わがままで、傷つきやすい子どもになりがちと言えます。

## 過保護とは何か

「過保護 = 問題」ではない。問題となる過保護は、次のような保護を与えていることである。

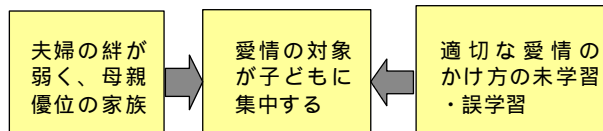
現在の発達段階に相応した保護を過剰に与えている  
現在の発達段階以前の保護を引続き与えている

- \* 自分の尺度で子どもを支配する
- \* 先回りの保護・干渉を与える
- \* 内心、子どもに受動的、依存的であることを求める

受動的・依存的（特に母親への依存）  
母子分離不安に結びつきやすい  
自立の遅れや困難に結びつきやすい

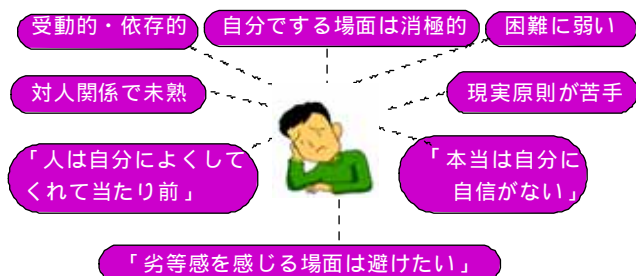
過保護ではなく「甘えの感情を満たす」= 子どもの感情を受け止め、共に体験し、子どもの感情の成長を助けることが有効

## 過保護になりやすい家族



- ・ 自立を願いつつも、いつまでも自分を頼ってほしいと思う
  - ・ 子どもを通して自己実現を図ろうとしている
- 「過保護をやめよ」は「子どもを愛するな」と同じ意味

## 過保護の子どもの特徴



## 過保護に育てられた子どもへの対応

「適切な行動」を学習させる（未学習を学習させる）

### リレーション（親密感・信頼感）を十分形成する

- ・ リレーションがない状態で要求したり、叱責すると、拒否的になったり、不安を高める。

### 役割を与える

例：班活動での役割や風呂掃除など、学校や家庭で役割を与え、できたらほめる

### ギブ・アンド・テイクを教える

例：何かしてもらったら「ありがとう」と言わせるなど、黙っていても与えられる生活を改善させる

やり方を教え、試行錯誤を見守り、できたことをほめよう

## 過保護な親への対応

- 教師の方針を説明し、了解してもらう
- ・ 「本人に、このように振る舞ってほしいので、かくかくしかじかと伝えます。ご了解いただけますか？」
- ・ 「今度、このことをきつく言いますので、不満を聴いていただきながらも、本人の肩を持たないでくださいませんか」

夫婦そろって面談に来てもらう

- ・ 夫婦の協力やコミュニケーションを深め、夫婦の絆を強めるチャンスになる

抽象的・批判的な要求はしない

- ・ 「甘やかさないで下さい」は抽象的で批判的にも聞こえる
- ・ 例えば「本人に、直接自分から言うようにとってください」と具体的にお願いします。

保護者の話によく耳を傾ける

- ・ 保護者の考えや気持ちをよく聴き、保護者ができることを一緒に考えていく。



【参考文献】 菊地和典編著、『親、教師、友人と子どもの関係』、開隆堂出版株式会社、2003

松尾恒子『母子関係の臨床心理』、日本評論社、1996

「自立心を育てる」『児童心理 2006 6月号』、金子書房、2006